

総務委員会議事録

1. 日 時 令和5年2月13日（月） 14時～15時20分

2. 場 所 春日井商工会議所 1階 大会議室

3. 出席者数	委員長	1名
	副委員長	1名
	委員	12名
	副会頭	1名
	オブザーバー	2名
	事務局	8名
	合 計	25名

4. 議 題

1. 2023年度事業計画（案）並びに一般会計、特別会計収支予算（案）及び関連諸事項について
2. 2022年度一般会計、特別会計収支更正予算（案）について
3. 春日井商工会議所定款並びに規約等の一部改正（案）について
4. その他

5. 議 事

課長補佐 高木 雅也

定刻に至り、開会を宣し野村委員長に挨拶を求める。

委員長 野村 浩司

挨拶を述べる。

課長補佐 高木 雅也

委員会規程により、議長に野村委員長を指名し、議長就任を要請する。

（委員長 議長に就任）

議 長 野村 浩司

議事に入り、議題1. 2023年度事業計画（案）並びに一般会計、特別会計収支予算（案）及び関連諸事項について、重点実施項目の説明を事務局に求める。

事務局次長 白木 芳洋

重点実施項目について、資料に沿って説明。

議 長 野村 浩司

続いて、部会事業について、出席の部会長に説明を求める。

製造業部会長 風岡 明憲

製造業部会事業について、資料に沿って説明。

サービス部会長 針尾 智子

製造業部会事業について、資料に沿って説明。

課 長 伊藤 伊月

部会長欠席のため、建設・不動産部会について、資料に沿って説明。

課 長 小栗 忠昭

部会長欠席のため、商業部会事業について、資料に沿って説明。

議 長 野村 浩司

続いて、収支予算の説明を事務局に求める。

課 長 伊藤 伊月

収支予算について、資料に沿って説明。

議 長 野村 浩司

議題1. について、各委員に意見を求める。特に意見もないため、議題2. 2022 年度一般会計、特別会計収支更正予算（案）について、事務局に説明を求める。

課 長 伊藤 伊月

2022 年度更正予算、サービス等生産性向上 I T 導入支援事業、商工会館修繕事業の2項目について説明。

議 長 野村 浩司

議題2. について、各委員に意見を求める。特に意見もないため、議題3. 春日井商工会議所定款並びに規約等の一部改正（案）について、事務局に説明を求める。

課 長 伊藤 伊月

定款、生命共済独自給付規則、育児・介護休業規程、ライフプラン支援手当支給規程、使用料、手数料規程、会報チラシ折込サービス事業内規の改正内容について資料に基づいて説明。

議 長 野村 浩司

議題3. について、各委員に意見を求める。特に意見もないため、議題4. その他について、第19期の振り返りということで、各委員に発言を求める。

委 員 三上 努（事業継続・新事業創出委員会）

事業継続をテーマとしてBCPセミナー等を実施。一定規模以上の事業所で

ないと本腰が上がらない印象であったが、自分自身も従業員の居住先や取引先の所在地などを考えていくと非常に大切な事であるので、今後も継続して取り組む必要性を感じている。

また、事業承継の困ったニーズを集めるため、アンケート調査も実施。定期的にニーズ発掘をする必要があると思う。

委員 針尾 智子（事業継続・新事業創出委員会）

三上委員長の話にあったように、事業承継ニーズを知ることができたので、今後は結果の活用方法を模索していくことになる。またBCPは自社で未作成であったため委員会事業がきっかけで完成させることができた。

委員 服部 律子（雇用促進・人材育成委員会）

峠委員長の既存のやり方を変えたい、既存の考え方を改めたいという思いから、一方的な発信だけでなく委員から意見を聞くという活発な討議を重視して運営した。人材の定着や育成、働き方というのは皆が抱えた共通のテーマであったため、これからも委員の生の声を聞ける委員会になると思っている。

委員 安藤 宜史（企業間交流・産学連携委員会）

コロナで委員会のテーマである企業間交流が許されない3年間であったが、その中でもビジネスフォーラムの後継事業である名古屋商工会議所での春日井の企業展示会を実施や会員交流会の実施など新たな挑戦もできた。

委員 三尾 友貴美（企業間交流・産学連携委員会）

委員会事業を通じて春日井の色々な企業と話ができた。第20期は委員長として、補助金認知度アップを図る事業、新しい企業展示会に挑戦し、利用した事業所がどれだけ売上に繋がったのかを数値化していきたいと考えている。

委員 今川 昇（生産性向上・業務効率化委員会）

市内で活躍している事業所を会員に広く知ってもらう視察会を企画したが、スタート早々にコロナで訪問できない状況になった。コロナ対応が緩和されてから3回視察会を実施することができ、普段知ることができない部分が非常に勉強になり有意義な時間となったため、今後も継続して欲しいと思う。

委員 山田 純（活力あるまちづくり委員会）

第18期から6年間委員長を務めさせていただいた。その中で青年部と連携して落合公園のサウンディング事業ができたことで、少しは役立てたのではないかと考えている。まちづくりという抽象的なテーマであるため委員会事業として取り組みづらい部分が多々あったが、市内産業と連携した行政への提言活動を取り入れ、それがまちづくりに繋がっていくことを期待したい。

委員長 野村 浩司（総務委員会）

会議所ニュースのリニューアル、SNSによる情報発信、会議資料の事前配信によるペーパーレス化などに取組めた。委員会最大の使命は会員増強であり、皆様には紹介など大いに協力をいただいたが、次年度以降も新しい委員長の下での新たな活動をお願いしたい。

副委員長 奥村 久子（組織拡大委員会）

加入件数だけに拘らず、組織率にも注目をして会員増強に取組めた。直近では入会歴が浅い会員を対象に交流会を実施したが、積極的に交流していただくとともに、会議所事業を発信することで、会員メリットを打ち出すことができ退会防止にも繋げることができたと思う。

委員 伊藤 信一

前任から引継いで3年、ようやく皆さんの顔と名前が一致してきた所であるが、春日井市で事業活動をさせていただいているので、委員会を通じて少しでも春日井市の役に立てればと思っている。

委員 風岡 明憲

第19期は、製造業第2部会長、組織拡大委員会副委員長を務めさせていただき、商工会議所全体の仕組みや流れを知ることができた。

委員 宅間 秀順

委員会活動とは関係ないが、弊社は30か国との貿易をされており、国内取引は伸び悩んでいるが、僅かながら成長している状況である。これも商工会議所の皆様あつての成果だと思うので、御礼を申し上げたい。

委員 早川 直文

委員会活動とは関係がないが、昨年亡くした父の葬儀関係で、お寺を中心とした古い形でのコミュニティが築かれ参加されていることを感じた。事業についても補助金、助成金という形から入るのでなく、コミュニティへの参加が必要であると改めて感じた。

委員 森 裕美

女性会会長という立場で委員会に参加したが、会議所活動の流れを知ることができたので、女性会会員にも周知していきたい。女性会としては次年度、起業女子を応援するプロジェクト事業を実施する。例会では毎回ゲストを招いて実施しているが、交流ができる集まりの場を探している印象があるので、積極的に声をかけて商工会議所会員増強にも繋げていきたい。

オブザーバー 森本 邦博

今年度から参加したが、1年が経ち、ようやく商工会議所事業やどういう部分に問題意識を持っているのか理解できた。次年度も同じ立場に居ると思うので引き続きよろしくお願ひしたい。

オブザーバー 金子 幸治

今年度から商工会議所のほとんどの委員会に参加させていただき、市内事業所と直接触れ合い、生の声を聞くことができるため自分にとって大きな財産になっている。次年度以降は少しでも市施策に反映できるよう進めていきたい。

議 長 野村 浩司

以上を持って議案を終了し、本日の総務委員会の閉会を宣す。

課長補佐 高木 雅也

報告事項に移り、第20期常設委員会希望調査について、白木事務局次長に説明を求める。

事務局次長 白木 芳洋

第20期常設委員会希望調査について、資料に沿って説明。

課長補佐 高木 雅也

最後に、木野瀬副会頭に挨拶を求める。

副 会 頭 木野瀬 吉孝

針尾委員から発言のあったワークライフバリューは、我々中小企業にとってキーワードになる。商工会議所は次年度、人材確保・人手不足をどう解消していくかに取組む。人材に関しては経営者の意識をコストではなく投資というように変えていかないと、良い人材は集まらないし育たない時代になっている。

またDXについても商工会議所は会議資料のペーパーレス化によりデータにて事前配信することにより、直前の資料配信でも会議に間に合い、かつ職員の負担軽減にも繋がっている。商工会議所も中小企業も変わらなければいけない部分は変えていかなければいけないと商工会議所活動を通じで感じている。

時に、15時20分